

関東農政局国営事業事前評価技術検討会 議事概要

1 日 時：平成24年7月20日（金） 15：00～16：00

2 場 所：さいたま新都心合同庁舎2号館 共用AV会議室504

3 対象地区：国営施設機能保全事業「釜無川」地区

4 委 員

関東農政局国営事業事前評価技術検討会委員

河野 英一	日本大学生物資源科学部 学部長
佐々木 隆	信州大学農学部 教授
堤 マサエ	山梨県立大学国際政策学部 教授
平山 けい子	山梨大学大学院医学工学総合研究部 助教

関東農政局国営事業管理委員会委員

河津 宏志	整備部 部長
平岩 裕規	農村計画部 部長
三善 浩二	農村計画部 農村振興課長
黒田 実	農村計画部 土地改良管理課長
中河原 正英	農村計画部 資源課長
松谷 孝史	農村計画部 事業計画課長
植野 栄治	整備部 設計課長
鈴木 修三	整備部 用地課長
田中 卓二	整備部 水利整備課長
生駒 孝一	整備部 農地整備課長
宮内 静夫	整備部 地域整備課長
古木 信也	整備部 防災課長
伊藤 忠夫	土地改良技術事務所 次長
中里 良一	西関東土地改良調査管理事務所 所長

## 5 議 事

関東農政局国営事業事前評価技術検討会を開催し、平成 25 年度事業着手予定地区である国営施設機能保全事業「釜無川」地区について、チェックリストの評価の確認等を行い、地区の妥当性等について審議した。

なお、本技術検討会は、政策の決定・公表が行われる前の内容を含むことから、非公開で行われた。

質疑応答の概要及び意見は以下のとおり。

### 国営施設機能保全事業「釜無川」地区

(委員)

用水路沿いの家庭から生活雑排水が流入すると、水質への影響が考えられるので、担当外かもしれないが十分注意してもらいたい。

(委員)

本事業の説明会の際などに、農家だけでなく一般の方を含めて生活雑排水の処理について啓発することにより改善に繋がるのではないか。

(委員)

果樹地帯での耕地利用率の増加は考えにくいといった背景があり、チェックリストの優先配慮事項の生産に係るいくつかの項目が B 評価となっている。しかしながら、果樹以外に水田もある地域にもかかわらず、農業産出額（300 万円/ha・年）は県平均（320 万円/ha・年）と遜色なく、また水田についても米のブランド化に成功していること等から、総合的に評価して A に近い B であると感じた。

(委員)

現行の指標では B 評価となるのはやむを得ないが、ブランド化や品質の観点を入れれば、もう少し良い評価が出来るのではないか。

(委員)

チェックリストの必須事項については、全て満たされており、着工に支障はない。優先配慮事項については、B 評価の項目があっても、可能なものについて A 評価になるよう努力していくということで問題ない。

(委員)

総費用総便益比を見ると、1.85 という高い数字になっている。この中には、消防水利施設による地域用水効果が含まれているが、このほかにすばらしい景観をもたらしているといったことを効果として加味してもいいのではないか。

(委員)

この地区は水持ちが悪い地域なので、用水が使えなくなると、効果算定で想定している以上の収量の減や品質の低下が実際には起こる可能性がある。水がなければ、この地域の果樹産業が成立しないと感じた。

(委員)

この地域の用水は、生産基盤だけでなく、生活基盤を支えているものであり、今後も継続して地域の発展をさせていくためにも必要不可欠である。本事業は、国土保全という観点からも地域や住民にとって役立っているという印象を持った。

(委員)

先人たちは良いものを造ってきている。ストックマネジメント手法を用いて、そうした財産を後世に伝えていくという事業は非常に重要である。

(委員)

本地区は、歴史ある施設に新たな技術を導入して長期に保全するというものであり、モデルになるような事業として是非取り組んでいただきたい。

(農政局)

農林水産省としては、国民の食料の安定供給のために、地域だけでなく、国民全体のための施策であることをしっかりと受け止め、維持管理等に苦勞しながら一生懸命生産に取り組んでいる農家を早急に支援できるよう取り組んでいきたい。

(委員)

我が国の桃やおうとうの生産は、海外と比較した場合、気候上の制約があるが、不利にならないようしっかりと水手当てをして欲しい。

(委員)

本評価については妥当である。なお、本検討会で出された意見については今後の参考とされたい。